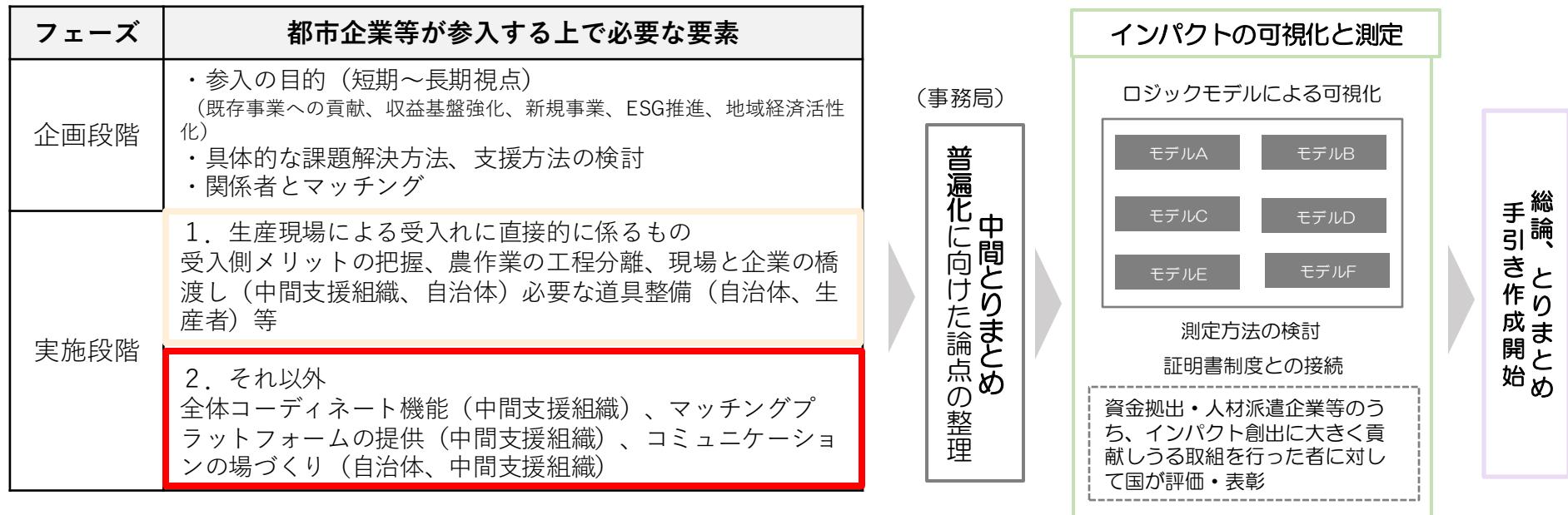


# 第3回検討会の議論テーマについて

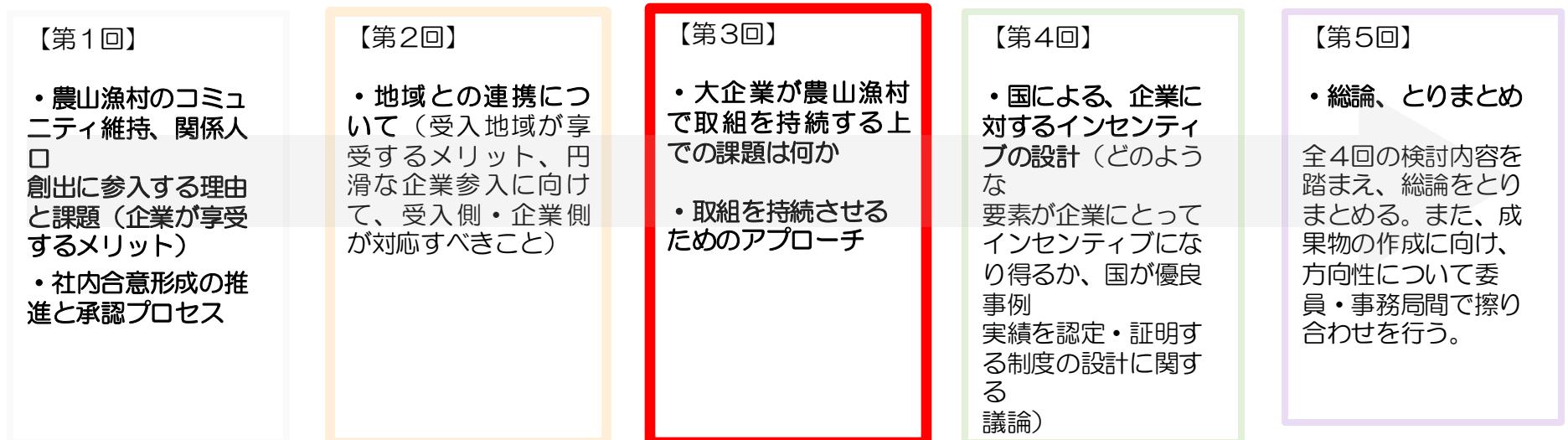


2025年10月

# 検討会における検討事項



※第4回以降については、証明書検討会の進捗状況を鑑みて、検討内容を調整することとする。



# 本日の議論のテーマ①

テーマ①：大企業が農山漁村で取組を持続する上での課題は何か

議論のゴール：農山漁村で取組を持続する際に直面する課題を洗い出し、特に重要な課題を把握する

議論のポイント：受入側（地域・生産現場）、中間支援組織、企業、それぞれの視点からの課題の共有



【地域・生産現場】

【中間支援組織】

【企業】

想定されるテーマ

地域資源を活かした  
社会・経済的価値創造

体制づくり

インパクト  
可視化

## 取組を持続させる上での課題

大企業による農山漁村への取組を持続させるためには、①地域資源を活かした社会・経済的な価値創造（例：農産物の付加価値化・商品開発、体験ツアーなど）、②体制づくり、③インパクト可視化や情報発信の観点から以下のような課題が考えられる

### 地域・生産現場

- ・ 商品・サービス開発の仕組や季節性・天候依存による価値創出の安定性不足
- ・ 受入体制・インフラ未整備、属人化、住民の課題認識・参画意欲が限定的
- ・ 取組成果・インパクトの数値化・ブランド発信の不足

### 中間支援組織

- ・ 双方の価値観・戦略理解不足、持続的なマッチング・価格設計の仕組み不足
- ・ 合意形成・プロジェクト管理の仕組みが未整備、地域横断での情報共有不足
- ・ 地域や企業の強み等のデータベース未整備、インパクト可視化ノウハウ不足

### 企業

- ・ 戦略・事業との接続が弱く価値向上に繋がり難い、インパクト定量化の仕組み未整備
- ・ 社員参加を促す制度・評価体制の未整備、地域とのコミュニケーション・リソース不足
- ・ 参入効果・ブランド価値向上の社内外共有が限定的、客観的評価・認証の仕組み不足

### テーマ②：取組を持続させるためにはどんなアプローチが有効か

- 地域・生産現場、中間支援組織、企業において、それぞれどんなアプローチが有効か
- 価値創造、体制づくり、インパクト可視化・情報発信などの観点で、取組を持続させるために有効なアプローチは何か

議論のゴール：

取組事例やご知見に基づき、実践につながる有効なアプローチを整理する

# 取組を持続させるアプローチ：事例からの示唆

大企業による参入事例では、農産物の安定供給や新ブランド創出による価値創造の仕組づくり、フィールドワークや教育研修・ワーケーションによる体制構築、可視化・評価連携の重要性が示された

	参画組織	取組概要	事例のポイント
ひろさき援農 プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"><li>アサヒビール</li><li>ニッカウヰスキー</li><li>JTB</li><li>弘前市</li></ul>	企業版ふるさと納税による寄附と連携し、繁忙期のりんご農家支援などを実施	<ul style="list-style-type: none"><li>農産物安定調達や新ブランド創出</li><li>観光運動型ボランティア</li></ul>
青空留学・ 能登復興事業	<ul style="list-style-type: none"><li>日本航空</li><li>8自治体、 石川県能登市</li></ul>	大学生や社会人が現場体験、課題提案や商品開発まで一貫したカリキュラム実施	<ul style="list-style-type: none"><li>フィールドワーク型設計×教育研修事業</li></ul>
ポケマルおやこ 地方留学／ STAY JAPAN	<ul style="list-style-type: none"><li>雨風太陽</li><li>全国の自治体</li></ul>	生産者ネットワークと宿泊体験を連動し、親子で農漁業体験を提供	<ul style="list-style-type: none"><li>EC・体験・宿泊・ワーケーション</li><li>都市～地方の流動性を高めるプラットフォーム設計</li></ul>
農業・林業・漁業 スポットワーク	<ul style="list-style-type: none"><li>タイミー</li><li>全国の自治体</li></ul>	タイミーによるスポットワークサービス。農業・林業・漁業分野で全国的に求人が急増	<ul style="list-style-type: none"><li>流動的な働き手マッチング</li><li>働き方の多様化</li></ul>
ネイチャーポジティブ コンソーシアム	<ul style="list-style-type: none"><li>三重県尾鷲市</li><li>企業各社</li><li>協働団体</li></ul>	尾鷲市と企業群・国際団体が連携。ゼロカーボンや生態系回復等を推進	<ul style="list-style-type: none"><li>産業×環境連携や外部（企業・NPO）参画の枠組み</li><li>可視化・評価連携</li></ul>

# 取組を持続させるアプローチ

ブランド化や収益モデル構築、戦略・事業との接続による企業価値向上、受入体制やインフラ整備、社員の参加を促す制度づくり、インパクトの可視化、認証・証明制度活用などが重要と考えられる

## 地域・生産現場

- ・ 地域資源（自然・人材・文化・産業）を活かし、収益・雇用・交流・持続可能性につながる仕組みの構築
- ・ 農協・NPO・地域おこし協力隊などの既存ネットワーク活用
- ・ 成果やインパクトのデータ化

## 中間支援組織

- ・ 「翻訳役」として商品開発・観光企画をコーディネート、企業と地域課題をマッチングし収益性を高める
- ・ 中間支援組織の強みや分野・実績を可視化、ワーケーションのプラットフォームを整備し関係人口化を支援
- ・ インパクト測定・評価を標準化し企業・国・地域の信頼性確保

## 企業

- ・ 戦略・事業と接続し企業価値向上へ繋げる、副業・フレックス制度活用で社員参加を促す
- ・ 協働を促す企业文化づくり、社内における目的共有、経営層と現場の目線合わせ
- ・ 認証・証明制度を活用した社内合意・取引先評価を向上、成果・インパクトの可視化による広報・ブランド戦略・人材確保